

国立二大学の立場から

松本千代栄

「戦後50年の舞踊教育」を、国立2大学の立場から概観する。(表参照)

1. 戦後教育の方針

第2次大戦後、米軍政府管理下に、初の「学校体育指導要綱」(文部省・昭22)が示された。“人間形成”の体育目標を掲げ、“教材”を教える体育から、“自己表現”をひき出す教育へ、訓練的体育から自主的体育へと一大転換を示した要綱は、戦後新教育の精神と理想を象徴するものとしても意味をもっている。

要綱は、小・中・高校及び大学の各発達段階をおさえ、運動領域を「体操・スポーツ・ダンス」と分類し、“競争と表現”という運動文化の質をふまえた分類を提示している。即ち、「ダンス」は、従来の「音楽運動」としての体育教材から解き放たれ、社会文化としての舞踊と同一の地平に立つものとして位置づけられた。

「(五)大学(仮称)約19年-22年」では、「身体的特徴、精神の特徴、適当な運動」を表示し、具体的には「ダンス」では「表現-表現技術・作品創作・作品鑑賞」と内容を示し、更に「民踊その他参考作品」「指導者養成では社交ダンスをとりあげてもよい」と視点をひろげている。

教育基本法(昭22)大学設置委員会(昭23)、国立新制大学(昭24)と制度化の進む中で、人間発達と教育を見とおし、「大学」までを含めた要綱からは、大学体育の確立と自主的・創造的教育への姿勢と識見が読みとられる。以後、体育科教育の中の「ダンス」は、50年後の現在まで、この基本的な方向づけを根幹として歩いてきた。

2. 専攻課程・学科の新設

「学」としての成立と評価は、制度上には“講座・学科”の設置によっておしはかられる。「舞踊学」担当教官は、先ず1952年(昭27)東京教育大学体育学部遊戯学講座に採用された。1963年(昭38)「舞踊学」講座新設、翌'64年(昭39)大学院修士課程が認められ、日本で初の国立大学での「舞踊学」講座及び修士課程の設置となった。(体育学修士号)次に、1971年(昭46)お茶の水女子大学教育学科体育学専攻は、「表現体育学」(舞踊教育学、遊戯学、動作学講座)に改組、実質的に舞踊学・舞踊教育学を主軸とした。1973年

(昭48)には、「人文科学研究科舞踊教育学」(修士課程)が新設され(文学修士号)、1976年(昭51)には、同大学「人間文化研究科(博士課程)」新設に際し、「比較芸術論」講座に“比較舞踊論”が位置づけられ、舞踊学研究は、漸く論考に向かう研究の楷梯を備えることになった。1982年(昭57)「舞踊教育学科」として「学科」が独立し、国立大学では初の“舞踊”を冠した学科として整えられた。舞踊研究を志す学生は、全国から進学。とりわけ修士課程への志望者は多く、舞踊文化と教育研究の一拠点となったと認められる。

1996(平8)大学改組に伴い、「芸術・表現行動学科」と改称され、“舞踊”の名称は“学科”としては失い、現在に到っている。

3. 舞踊研究の開拓

舞踊研究は、各大学の研究紀要刊行、及び日本体育学会設立(昭25~)と共に推進され、日本女子体育連盟(昭29~)研究発表会及び研究紀要刊行などによって、先ず体育学上にその成果が公表された。舞踊学会(設立、昭50)は、舞踊文化の諸領域からの研究・教育者、演者を擁する独自の学会として設立され「舞踊学」成立と充実のための拠点として今日に至っている。

国立大学に籍をおいた筆者の範囲に限って研究視点の提出を見ると、①「実態調査」(昭27~)による舞踊経験の現状把握を基底とし、②「舞踊の創作・鑑賞能力の発達」(昭41~、科学研究費)を探り③「舞踊用語の収集・分類と舞踊の構造・機能」(昭56~)の構造分析を進めて教育資料を提出④「舞踊課題と創作学習モデル」(昭56~)を具体化して創作学習に備え、他方⑤基礎研究として昭和30年以降“運動とイメージの連合”の様相を実験・実証をもって追跡し、操作上に連合の範疇を明らかにしている。また、⑥舞踊文化の特質を現象上にとらえ、上述の研究法をもって明らかにしている。(既報 CHHAU の解析 '82など)

他方この年月の卒業論文、修士論文指導では、学生の適性と関心に応じ、研究主題と研究方法を可能な限り広げ、舞踊文化と人間存在の追求をめざし、ひいては「舞踊学」の成立と充実を若き人材に期待した。

4. 研究交流

前述の各学会での年毎の研究報告と共に、国際女子体育会議 JAPESGW における研究報告（1965年以降4年毎）によって研究の国際交流をはかった。特に運動現象性の文化の特性と研究成果の質を考え、論と共に演を展開し、比較文化に資し、かつ科学的操作をもって抽出した成果を広く人々のものとしようとした。会議参加によって Demonstrater（学生）の視野をひらくことをもねがった。

5. 人と進路

表に示すとおり、およそ30年間（昭30～60）に多くの人材を多方面におくり出すことができた。国立2大学の「舞踊学講座」は、個性を生かす「自由の土壌」として存在の意味を有していたと認められようか。

*1998年度春季第45回舞踊学会
『舞踊学』21号より転載

基調報告

二階堂学園のダンス教育について

金井美三枝（文江）

日本女子体育大学運動科学舞踊学専攻誕生までの経移

- 大正11年（1922年）二階堂体操塾 創立
遊技：トクヨ 週3時間授業、たしなみのよい美しく健康な女性を育てることを目標とした
- 昭和元年（1926年）日本女子体育専門学校に昇格
遊技：1年次週4時間、2年次週5時間、3年次週6時間 授業
- 昭和3年頃：石井小浪、高田せい子、渋井二夫 就任（トクヨはダンス担当に芸術家を起用した）
- 昭和11年：天野 蝶（リトミック） 就任
昭和15年：戸倉ハル 就任
昭和21年：江口隆哉 就任、この年より日本女子体育専門学校に創作ダンス根づく。
- 昭和25年：（1950年）学制改革により日本女子体育短期大学体育科となる
ダンス、創作舞踊：戸倉、天野、江口 各週1時間授業
- 昭和35年：（1960年）文部省に申請した「体育芸術科」の許可ならず
- 昭和38年：（1963年）金井美三枝（モダンダンス）
- 昭和40年：（1965年）日本女子体育大学体育学部 開学
- 昭和42年：（1967年）日本女子体育短期大学体育科に舞踊専攻を置く

日本女子体育短期大学体育科舞踊専攻のダンス関係科目

学校ダンス、モダンダンス、舞踊概論創作法、リトミック、バレエ、ミュージカル、タップダンス、人体美学、美容
以上を江口隆哉、天野 蝶、広瀬佐紀子（バレエ）他が教授した。

- 昭和51年：（1976年）花柳照奈（日本舞踊）
昭和52年：（1977年）佐藤桂子（スペイン舞踊）、太田順造（パントマイム）
昭和54年：（1979年）舞台照明、舞台美術、舞踊心理学
昭和55年：（1980年）美術、西洋美術史、演技論、演劇概論、日本演劇史、西洋演劇史、舞踊伴奏法、舞踊音楽研究、フォークダンス
昭和58年：（1983年）柳 昭子（ジャズダンス）

舞踊専攻の平成10年（1998年）現在のダンス関係科目

- 舞踊概論、舞踊創作法、モダンダンス、スペイン舞踊、ジャズダンス、日本舞踊、バレエ、パントマイム、タップダンス、マスゲーム、リトミック、エアロビクス、演劇概論、美術、美術史、人体美学、ミュージカル論、舞踊音楽論、舞踊伴奏法
- 平成2年（1990年）日本女子体育大学体育学部体育学科がコース分けされ「芸術スポーツコース」が置かれる。
福田 一平（舞踊学）

平成10年現在「芸術スポーツコース」のダンス関係科目

舞踊論, 舞踊創作法, 人体美学, スポーツ音楽, 民族舞踊(日本舞踊含む), モダンダンス, クラシックバレエ, ジャズダンス, 新体操, スペイン舞踊, バントマイム, 運動技術論, 舞台芸術論, 舞台効果論, ノーテーション, 芸術スポーツ伴奏演習

平成5年(1993年)日本女子体育大学大学院(芸術スポーツ科学専修)開学

カール・ウォルツ(ラバノーテーション)

平成10年(1998年)日下四郎(大学院舞踊学), 若松尾黄(舞踊美学)

大学院「芸術スポーツ科学専修」の科目

芸術スポーツ論特講・特演, 表現運動学特講・特演, 芸術スポーツ指導・演出論特講・特演, 舞台芸術論特講・特演, 舞踊美学特講, 民族舞踊学特演

平成11年(1999年)学園の改組により日本女子体育大学運動科学科舞踊学専攻となる予定

運動科学科舞踊学専攻(予)のダンス関係科目

舞踊学原論, 舞踊美学, 舞台芸術論, 舞踊音楽論, 生涯ダンス論, 比較舞踊学, モダンダンス, クラシックバレエ, ジャズダンス, 日本舞踊, スペイン舞踊, フォークダンス, エアロビックダンス, 野外上演法(マスマゲーム), 演技, 演劇論, ミュージカル論, 人体美学, 舞踊分析法, 舞踊伴奏法, スポーツマネージメント, 舞踊教育法, 舞踊創作・振付法, 舞踊コンディショニング, 表現運動学, 舞踊方法論, 創作, 舞踊技術論, 舞台技術論, 舞台演出論, ダンスセラピー

舞踊に関する課外活動

◎伝統ダンス

塾, 専門学校時代は全寮制であったため, 夕食後に全員がダンスの自主練習をした。誰ということなく伝統ダンスと名付けられた。作品数は50曲ぐらいあった。

里ごころ 浜千鳥 雨ふりお月さん
美しき天然 花嫁人形 木曽節
佐渡おけさ カドリール マズルガ

など

◎ダンス講習会

トクヨは大正11年より体操ダンス講習会を開催し, 以後ほぼ毎年続いており, 昭和17年より同窓会(松徳会)主催で, 「夏期体育指導者研修会」となり, 続いている。

◎ダンス旅行

昭和26~44年戸倉, 天野, 江口の指導・学園主催により全国各地約100ヶ所で学生のダンスを披露した。

◎夏期モダンダンス講習会

江口隆哉がドイツから帰国して, 昭和10年より始めた講習会は, 日本女子体育大学・同短期大学公開講座となり, 今年で60回を数える。

◎マスマゲーム

トクヨの教え子である戸倉ハルは二階堂学園に於いて, 昭和15~37年非常勤講師, 昭和37~43年には専任として教鞭をとった。その間, 得意のマスマゲーム「六段によせて」「吉野の春」「海のあけくれ」などの指導をし, 昭和28年頃より体育競技会体育祭, 東京オリンピック前夜祭など神宮球場, 国立競技場, 後楽園などに出演し, 出演回数は19回を超える。

◎全国中学校・高等学校ダンスコンクール

昭和23年より開催され, 今年で第51回目を数える。全国からの参加作品数は100作品程で, 参加人数は約1,000人, メルパルクホールで行われ, 毎年大盛況である。

◎モダンダンス部発表会

昭和41年より毎年都内の劇場で創作舞踊を発表している。

◎短大舞踊専攻「舞踊卒業公演」

昭和52年から毎年, モダンダンス, スペイン舞踊, 日本舞踊, バレエ, ジャズダンス, タップダンスなどを競演している。単位は卒業論文と同格に扱われている。

◎芸術スポーツコース「卒業公演」

平成7年より, 学生の創作舞踊, 民族舞踊などを上演している。

*1998年度春季第45回舞踊学会『舞踊學』21号より転載